

重点項目（3 ヶ年計画 2022～2024 年度）

1. 2020 年度の事故事件及び 2021 年度の対応を踏まえた泉苑再編成の年とする
2. 利用者の権利尊重を最優先に、法令を遵守した健全な施設運営を行っている
3. 職員一人一人が力をつけ、その力を発揮できる組織になっている
4. 「困りそうなら泉苑に相談。」地域の高齢者やご家族の相談に応えられる施設

1. 2020 年度の事故事件及び 2021 年度の対応を踏まえた泉苑再編成の年とする

- (1) 信愛泉苑実利用数 100 名を維持する（特養 90 名・短期入所 10 名をベースに流動的に対応）
- (2) 居室移動も含めた環境整備を進め、ゆとりある環境で利用者の生活を支援する
- (3) 日常の介護の中での気づきについて正確に記録を行う。
- (4) 臨時リスク会議開催も含め、事故発生時の対応を体系化し、徹底して再発を防止する。
- (5) 事故防止委員会にて事故再発防止策の後追い検証を行い、個別ケースにもその記録を残す。
- (6) 記録に基づいたアセスメントによる課題分析を行い、ケアプラン立案につなげる
- (7) 入浴業務の見直しによりフロア完結の入浴を推進する
- (8) 事故の再発防止に向けた取り組みにより事故を 50%削減する（1 事故：検証→対策→実施→確認）

2. 利用者の権利尊重を最優先に、法令を遵守した健全な施設運営を行っている

- (1) その方らしい暮らしの実現に向け、ケアプラン立案への本人・家族の参画を進める。
- (2) 災害・感染対策の BCP に基づいた訓練を実施し、BCM への取り組みを進める。
- (3) 法人版倫理綱領に基づく倫理研修を行い、利用者の権利尊重を大切に出来る組織を作る。
- (4) 高齢者虐待防止研修を定例実施し、権利擁護意識を常に持ち続けられる組織を作る。
- (5) 未受講者を中心に認知症研修を進め、認知症の方の思いを皆が受け止められる施設にする。
- (6) 施設内各会議にて多職種の連携強化を進め、気づきや発案内容を利用者の生活支援に役立てる。
- (7) スピーディーな入所に向け、特養待機者への先行訪問調査を進める。（ストック 2 名）
- (8) 防災設備の図示化・災害発生時の対応内容明文化により、災害に対応出来る力をつける。
- (9) 職員一人一人がコスト意識を強く持ち、省エネルギー、節約に励む。

3. 職員一人一人が力をつけ、その力を発揮できる組織になっている

- (1) 研修に動画等の映像資料を活用し、時間帯の制約なく学習効果の高い受講が出来るようにする。
- (2) 面接等を活用し、職員一人一人が自分の将来イメージを描き、そこに進んでいける育成を行う。
- (3) OJT にて記録の正確性の向上と充実、記録から課題を導き出すアセスメント力を強化する。
- (4) ケアカルテ記録入力内容について再整理を行う。iPhone も活用し記録入力の効率化を進める
- (5) 必要な方に必要な介護機器がマッチングできるよう、マネジメントスキルを高める。

4. 「困りそうなら泉苑に相談。」地域の高齢者やご家族の相談に応えられる施設

- (1) 複合的課題を抱えた事例を経営会議で共有し、泉苑全体で地域の現状の理解を進める。
- (2) 多目的ホールの地域開放を継続する。
- (3) ボランティア受け入れルールを再構築し、新たな動きとして導入を進める。
- (4) むさこいまつりを再開する。武蔵台連絡会を活性化させ、しらとりとの連携を進める。
- (5) コロナ禍の中でも安全に運営できるいずみ食堂の対応方法を検討、再開を目指す。
- (6) 昨年度実施した食のニーズの実態調査結果を踏まえ、地域に向けた新たな展開を検討する
- (7) 近隣学校等との交流事業（職場体験・体験ボランティア等）を再開させる。